



安中だより

【第16号】

令和8年 1月 7日

TEL32-0057 FAX32-4377

【文責 校長 浦島 容子】

3学期! どこまでも!!

令和8年 明けましておめでとうございます。

ワクワクしています。今日から始まる3学期、安中はどこまで行くのか
楽しみでなりません。

年末年始であわただしく過ぎた冬休みでしたが、この間も安中生の
頑張りとは活躍は止むことはありませんでした。町内学童のクリスマス会で、吹奏楽部は、子どもたちや大人に演奏
で楽しい時間を届けました。聞かれた方から、「素敵なプレゼントをありがとう」という言葉が届きました。

大会で限りなく力を発揮した男女ソフトテニス部、ハンドボールチーム、練習を継続したスキー部、これから始まる
大会が待ち遠しいものです。また、学校の部活動で、生徒たちの「やる気」を見るのは楽しいと話す教員の声も
あり、明るい新春です。

3年生は自ら決めた進路に向かって、それぞれが受験勉強に励んだと聞いています。「ここまで頑張ることがで
きるんや」「1、2年の時の勉強は大事や」と、話す声を聞きます。こうやって本気になることは、今後の人生に必ず
生きるてくるものです。入試がいよいよ始まります。3年間積み上げたものを自信として、試験や面接に立ち向かっ
てほしいものです。緊張や不安を抱くと思います。家庭や地域での温かい励まし、見守りを一層お願いします。
新しい人生に向けて、一体となって、乗り越えさせていきましょう。

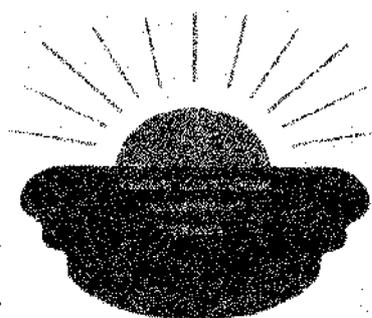
3学期は短い期間の中に、心を高める
大事な行事が詰まっています。

この時に、『夢や目標』を意識し、
行動することは、『力』につながります。

また、ここからスタートです。

どこまでも目指す、近づく、一步一步。

本年もどうぞよろしくお願いします。



「すごいですよ!」

12月の終業式前日に職員室で教員が話しかけた言葉です。たずねると、「校友会が、終業式の集合を自分たち
でやると言いました。どうすればうまくいくかを話し合っています。」と言うのです。今までも学年集会を自分たちで
企画し、進めてきていましたが、全校集会も自分たちで創ると言うのです。子どもたちは今までの経験を活かして、
力を発揮しようとしています。成長を感じます。本日の始業式においても、校友会が集合を務め、抱負を語ってくれ
ました。3学期のうれしい幕開けです。

AMP! ?

「授業は先生が創る(進める)もの」と考えることが多いですが、安中はこの考え方が変わりつつあります。1年生が、これを、『AMP』(A アカデミック M メンター P プロジェクト)名付けました。ワクワクする取り組みです。

ビジネスの中で、「メンター制度」という言葉をよく聞くようになりました。目標を同じくする仲間が、対話を大切にしながら、お互いが自発的な行動や成長をサポートしていく制度です。その中で、自ら主体的に目標達成に向けて進むというものです。



安中では、先生と生徒が仲間として、対話を大切にしながら「より良い授業を創りたい」との考えから、取り組みが始まりました。2学期に、1年生の生徒は他クラスの授業を参観し、どうしたらもっと面白く、楽しく勉強ができるかと、教員と生徒が研究会を持ちました。ここでの対話が今後の授業に反映されます。「授業は先生と生徒が共に創るもの」という考え方へシフトチェンジです。互いがサポートしながら成長していきます。

学校教育において、子どもたちの「主体的な学び」を育てることが重要視されています。生徒が自ら授業を創ろうとする態度は、「主体的な学び」へとつながると考えます。

授業参観ウィークの1月20日(火)に、この取り組みを行います。保護者の皆さん、地域の皆さん、どうぞ参観ください。

子どもたちのより良い成長を目指して

1学期に「制服を着るか、体操服を着るか、自分で選ぶという選択制にできないでしょうか。」と、生徒から話がありました。体操服は熱中症の予防につながり、動きやすく活動しやすいなどというのが理由でした。

保護者や地域の大人の方に参加をしてもらい、議論をしました。2学期末には保護者アンケートにも回答してもらいました。大人からは、「制服は高価だから、もっと着てほしい」「制服は学生の証だから着てほしい」「選択することは、子どもたちの自主性を育むことにつながる」など様々な声がありました。

さらに議論を重ね、子どもたちが制服を着る日を決め、制服選択制の期間を設定してみることにしました。終業式、始業式の今日、生徒は自ら考え、選択し、登校しました。

時間をかけて、子どもたちに考えや行動を委ねることの大切さを感じます。その中で大事なことに気付いてほしい。大人がそれぞれの場でどうかかわっていくことが、子どもたちのさらなる成長につながるのか、安曇川町の皆さんと話していきたいと思ひます。